

1 単元名 「SDGs探求」

2 単元の目標

○課題解決のために、普段の生活を振り返ったり、興味をもったことについて調べたりし、集めた情報を整理・分析することができる。 (知識及び技能)

○調べたことをもとに考え、対話を通して自分の考えを深めることができる。

相手や目的を意識して、発表の仕方を工夫したり、表したりすることができる。

(思考力、判断力、表現力等)

○身の回りの課題について、進んで解決しようとし、社会の一員としての自覚をもとうとする。

(学びに向かう力、人間性等)

3 単元について

(1) 教材観

本校の学校教育目標は、「生きる力を備え、地域で活躍できる人材の育成」である。第3学年では、コミュニティスクールの中学校区で掲げている「あったかやなぎ」をキーワードに、学びを深めた。第4学年の前期は、「防災探検隊」をキーワードに、地域の防災マップを作ることを通して地域の安全性への理解を深めた。

第4学年の後期では、道徳や社会科の学習の中で少し触れたことがあり、見聞きしたことのある児童が多いSDGsを取り上げ、理解を深める。既習の学習とSDGsの関連性を見出したり、具体的な活動を通してその意義を考えたりすることによって、児童にとってSDGsが身近なものとなり、これから出会う世の中の出来事や学習する内容とSDGsの概念を結び付けて考えることのできる力を育てたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、学習に真面目に取り組む児童が多い。児童から教師に対して、学習の意義を問う姿が見られることがあり、物事の本質を捉えようとする意識が高い。見聞きしたことのあるSDGsについてこれまでの既習事項や社会的課題に繋げて考えることにより、児童一人一人に自分事として身近に感じることのできる社会課題を捉えさせたい。

また、情報端末を使用することが好きな児童が多いため、自分が興味をもったゴールについて調べたり、発表するためにまとめたりする活動を設定し、意欲的に取り組ませたい。

(3) 指導観

まずは、1学期に社会科で学習したごみの分別・リサイクルと、毎年地域の方が取り組んでいるクリスマスのペットボトルイルミネーションツリー制作を繋げて、4年生が主体となって校内でペットボトルを集める活動に取り組む。施設訪問や教科書から学んだことを具体的な活動に繋げ

ることで、社会課題に意識を広げ、具体的な活動に取り組む意義を考えさせる。

次に、SDGs の概念を学び、既習学習との関係性を考えたり、自分が興味のあるゴールについて調べたりする。自分たちで取り組める活動を考え、校内・地域で取り組む。

最後に、調べてきたことや活動してきたことを振り返り、まとめる。伝える相手を児童自身で考え、伝え方についても、聞き手を考えた上で、スライド作成、動画作成、スクラッチでクイズゲーム作成等、さまざまな方法から選択できるようにする。

#### (4) ESDとの関連

##### ・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- 相互性：自分たちの生活が、社会的な問題と繋がっている。
- 有限性：自分たちの生活によって、持続不可能な社会に繋がる。
- 連携性：一人ではできないことも、協力すればいろいろなことができる。

##### ・本学習で変容を促すESDの資質・能力

- 多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）  
学んできたことをSDGs に繋がたり日常生活とSDGs を繋がたりすることができる。
- 他者と協力する態度  
グループでまとめたり、発表したり、取り組んだりすることができる。
- 進んで参加する態度  
自分が関心を持ったことについて調べたり、よいと思ったことについて、積極的に取り組んだりすることができる。

##### ・本学習で変容を促すESDの価値観

- 世代内の公正  
SDGs を自分事化し、今、自分たちに取り組むことが何かを考え、解決のために取り組むことができるということに気づき、重要性に気づく。

##### ・達成が期待させるSDGs

- 目標11：まちづくり
- 目標16：平和・公正

#### 4 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①課題解決のために、普段の生活を振り返ったり、興味をもったことについて調べたりしている。 ②集めた情報を整理したり、分析したりしている。	①調べたことをもとに考えを深めたり、対話を通して自分の考えを深めたりしている。 ②相手や目的を意識して、発表の仕方を工夫したり、表したりしている。	①身の回りの課題について、進んで解決しようとしている。 ②社会の一員としての自覚をもち、これからの生活に対する意識が変化している。

5 指導・評価の計画（全25時間扱い）

学習活動	学習への支援	○評価
1. 社会で学習したりサイクルの実践として、地域の方々が作ってくださっているペットボトルツリーに使うペットボトルを4年生が主体的に集めることを伝える。	3年生で探求した“あったかやなぎ”と繋げて考えられるようにする。	
2. 自分たちがペットボトルを集め、見本を作る。 (油性マジックで絵や模様を書く。)	相手意識をもち、わかりやすい見本を意識して作る。	(イ)①
3. ペットボトル回収を呼び掛ける。 ①朝の会や休み時間に各学級を回り呼びかける。 ②昼の放送でアナウンスする。 ③ポスターを制作し、校内に掲示する。	目標本数を掲げ、意欲的に取り組めるようにする。	(イ)①
4. 集まったペットボトルの集計，サイズ確認，再度呼びかけ。		
(地域の方々がイルミネーションの設置) ※4年児童と保護者の参加者が増えることを期待。		
5. ペットボトルツリーの活動を振り返る。 6. SDGsについて知る。 7. これまで、学校で学んできた学習とSDGsとの関係性を考える。 8. 自分が関心のあるSDGsについて調べる。 9. クラス内で伝え合う。	一人一人が自分とSDGsとの繋がりに気づき、自分事のできるよう、既習事項と結び付けたり、自分でテーマを決めたりすることを大切にする。	(ア)① ② (イ)①
10. 自分たちが学校や地域で取り組めることを考える。 11. グループで実践		(イ)② (ウ)①
12. 実践を振り返る。 13. 伝える相手，伝え方を考える。 14. 発表準備 15. 発表（スライド作成，動画作成，スクラッチでクイズゲーム作成など） 16. 振り返り	伝える相手を児童が自ら選択し、伝え方も選択できるようにする。 伝えることで、相手にどうなってほしいのかについて考え、思いを持って取り組めるようにする。	(イ)① (ウ)②

## 6. 成果と課題

本校が使用している国語・社会・道徳の教科書にSDGsのアイコンが掲載されていることについて、これまで深く触れる機会がなかった。1～4学年の単元配列表と教科書を準備し、これまで学んできたことや日常生活とSDGsの各目標を繋げる活動を行った(多面的・総合的に考える力)。児童は、たくさん気づきを得ることができ、これからの学習を社会の問題と繋げて考える素地となる学習となったと考える。

これまで、あまり社会的な課題に興味をもっていなかった児童も、自分たちの生活が世界の様々な問題や持続不可能な社会に繋がっているということに気づき(相互性・有限性)、出来ることに取り組もうとする姿勢が見られた。具体的な取り組みを考える活動に進んで取り組むことが出来なかった児童も、グループで取り組むことによって、生き生きと取り組むことができた(連携性)。

自分たちが考えた具体的な活動に取り組んだり(世代内の公正)、グループで発表したり(他者と協力する態度)した。国語や算数の学習に関心がない児童が、意欲的に調べている姿が見られたり、楽しそうに活動したりしている姿が見られた。(進んで参加する態度)

課題としては、児童の活動時間が十分ではなかったことがあげられる。SDGsは、様々な切り口で学習を進めることができるので、年間を通して取り組むことで、柔軟に時間を使えるようになり、より学びを深めることができるのではないかと考える。前期の総合的な学習の時間では、防災マップ作りに取り組んだが、SDGsのテーマの中に入れ込むこともできる。年度初めからSDGsに取り組み、児童の関心に合わせて、活動を設定することで、より児童の主体的な学びに繋げることができたと考える。

また、もっと多様な他者と関わりながら学びを深められるように学習計画を進めることが出来たら良かった。この点に関しても、1学期に児童の関心を調査し、夏休みの期間を使って、多方面にアプローチした上で、2学期の学習の計画を立てることが良いだろう。

現在の学年終了時に目指す姿

自分たちが住む地域に感謝と愛着をもち、一人一人の行動が地域社会を作っているということに気づき、自分たちにも地域社会に対してできることがあるという自己有用感をもつ。



社会科「わたしの町、みんなの町」  
町探検を行い、住んでいる高柳地区の土地の使われ方、施設、交通の様子などを調べる。特に、商店、近隣センター、公園、駅などについて地域の高柳地区の特長をつかむ。

いろいろな商店・店があるなあ。

社会科「農家の人々」、「警察」「店ではたらく人」、「消防」  
たくさんの人たちが自分達のより良い生活のために働いてくれていることに気づき、感謝の気持ちをもつ。

便利で安心な生活は、地域のために働いてくれる人たちのおかげだなあ。

総合的な学習の時間

「ぼくも、わたしも、あったかやなぎ」

○主に養いたい ESD の資質・能力

- ・多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）  
高柳地域を多面的に捉える。
- ・コミュニケーションを行う力  
グループで考えることで、自分の考えを広げ、深める。地域の方々にインタビューをする。
- ・他者と協力する態度  
地域のためにできることを考え、グループで取り組む。
- ・つながりを尊重する態度  
地域の方々にお世話になっていることに感謝し、自分たちにできることを考え取り組む。
- ・進んで参加する態度  
地域行事・地域活動に進んで参加する態度を育む。

○主に育てたい ESD の価値観

- ・幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。  
地域の良さを実感し、この地域で生活していることに感謝する心を持つ。
- ・世代間の公正  
地域のために活動してくれている様々な世代の人のことを知り、自分たちも、地域の一員であることを自覚する。自分たちにもできることがあることに気づく。

総合的な学習の時間

「あったか計算を広げよう」+ - × ÷

あったか計算について考えを深める。福祉体験を行い、目の不自由な人、車いすやベビーカーを使用している人、外国人などが不便に感じていることについて考える。自分が地域のために取り組むことができる「あったか計算」について考える。

声をかけて、手助けできる大人になりたい

広がって歩かない。

総合的な学習の時間

「あったかやなぎのために」

地域のために取り組めることについて考え、実際に取り組む。

国語「俳句に親しむ」

5・7・5のリズムに親しんだ経験に関連付け、「あったかやなぎ」を広げるための標語作りの活動をする。

国語「絵文字の役割」

絵文字の役割を理解した上で、目的に応じた表現の工夫に発展させる。  
「あったかやなぎマークをつくろう」

国語「取材したことをほうこく文に」

「自分の気持ちを手紙に」

「ちいきの行事」

取材・インタビューの方法やまとめ方、お礼の手紙の書き方について学ぶ。